

中村医師へ思いを寄せる、 そこから何かが生まれる。



人は愛するに足り、
真心は信ずるに足る
アフガンとの約束

中村哲著 澤地久枝(聞き手)
岩波書店 本体1900円＋税

これまでの中村哲さんに関する本は、アフガニスタンでの井戸掘りや水路づくりの意義を中心に綴られたものが多かった。

本書も中村さんの仕事への敬意に満ちたものですが、この本の新しさは「中村さん個人のこともっと知りたい」というインタビューアー(澤地久枝さん)の気持ちがいひしひしと伝わってくるところです。

質問は、中村さんの祖父母、両親、奥さん、そして子どものごとにまで及びます。1980年代のソ連軍侵攻の

さなか、アフガンで子どもたちを育てた奥様の肝っ玉には頭が下がり、脳の神経の腫瘍で亡くなった息子さんについて語るくだりでは胸が詰まります。

ペシャワール会の活動に注目しつつも自分は日本にいて何もできないと無力感を抱いている方がいるかもしれないが、紛争地域で用水路を拓く中村医師がどのようにして生まれたのか、それを知るだけでも心のなかに変化が生れることでしょう。大切なことはいつも小さなきっかけから始まる——そんなことを教えてくれる1冊です。